

東京都における親水公園の整備動向に関する調査研究
 -親水公園のパンフレットの頻出用語に着目して-
 Study on development trend of the water park in Tokyo
 - Focusing on frequent term of park brochure in each district -

○湯浅直之¹, 菅原遼², 畔柳昭雄²

*Naoyuki Yuasa¹, Ryo Sugahara², Akio Kuroyanagi²,

Abstract: In this paper, In Tokyo, the development of the Furukawa Parent Park, the first Japanese water familiar park in Edogawa ward in 1974, has been developed sequentially in each of the districts. In 2005, a survey on the maintenance situation of the water familiar park conducted by the authors confirms the maintenance of 71 water familiar parks in 10 wards of Tokyo by utilizing existing agricultural waterways and rivers.

1. はじめに

東京都では、1974 年において日本初の親水公園として古川親公園（江戸川区）が整備された。その後、各区において順次整備が進められてきた。2005 年に筆者らが実施した親水公園の整備状況に関する調査¹⁾では既存の農業用水路や河川を活用することにより、東京都 10 区において 71 ヶ所の親水公園整備が行われてきた。また東京都のみならず、全国各地において「親水」を冠した公園整備が順次実施されてきており、各地域の新たな都市環境資源として親水公園は位置付けられ、空間整備および利用が展開されていることがわかる。

こうした中で、親水公園整備が開始されてから 45 年以上が経過する中で、親水公園の整備動向やその特徴、空間利用の位置づけ等が地域ごとに変様してきている。

そこで本稿では、東京都における親水公園に着目し、その整備動向を整理するとともに、親水公園のパンフレットを基にそこに記載されている用語頻出から、空間利用および管理における各自治体の方針を捉えることを目的とする。

2. 調査概要

調査概要を Table1 に示す。本稿では多数の親水公園整備が行われている東京都 23 区を対象地とし、まず、全区に対してパンフレットの有無を把握した。その結果、パンフレット作成を江戸川区（5 部）、北区（5 部）、墨田区（1 部）の 3 区で計 11 部収集できた。その後、各親水公園整備の動向を把握するため、各公園担当課への電話によるヒアリング調査を実施し、加えて、WEB 調査による資料収集を実施した。その後、空間利用及び管理の自治体方針を捉えるため公園パンフレットから活動実態を示す用語を抽出することとした。

Table 1. Survey Summary

項目	概要
対象公園	東京都 23 区内の親水公園
調査方法	ヒアリング調査 各区における公園担当課に対するヒアリング
	パンフレット集計 各区における親水公園のパンフレット収集・内容整理
	WEB 調査 インターネットを用いた情報収集
調査内容	公園担当課が親水公園として認識し、管理している公園数
	親水公園の基本情報（公園面積・開園年・公園分類）
	パンフレットの発行の有無
回収率	① 親水公園においての活動を示す単語の抽出
	② ①において抽出した単語から親水活動を示す単語の抽出
回収率	ヒアリング調査 38 箇所の親水公園を確認
	パンフレット集計 13/38 の親水公園においてパンフレット発行、うち 11 箇所収集

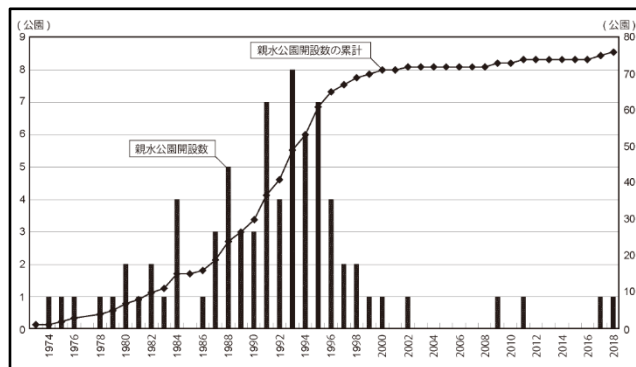


Figure 1. Maintenance trend of Water Familiar Park

3. 調査結果

3-1. 東京都における親水公園の推移

東京都における親水公園の整備動向を Figure1 に示す。これをみると、1973 年に古川親水公園が開園して以降、1983 年までは年々増加傾向にあることが分かる。その後、1987 年から 1995 年頃までに 42 公園が開園しており、現在までの開園数の約半数がこの期間に開園していることが読み取れる。これは、東京都における公園整備への取り組みが本格化した事が要因として挙げられる。加えて、42 公園中の 13 公園が足立区によって開園されていることから、足立区では「足立区河川・水路総合計画」により役割を終えた用水路を新たな環境づくりの資源として活用したことが分かった。

1 : 日大理工・学部・海建 2 : 日大理工・教員・海建

Table 2. Outline of Water Familiar Park

No	区名	公園名	開園年(年)	公園面積(m ²)	水源	主要施設	実施イベント	都市公園分類
1	江戸川区	古川親水公園	1973	9,434	旧江戸川	散策路、水遊び場	清掃活動、古川まつり	都市緑地
2		一之江境川親水公園	1995	30,565	新中川	散策路、水遊び場	自然観察会、清掃活動、歌声鑑賞会	都市緑地
3		小松川境川親水公園	1982	34,815	新中川	散策路、水遊び場	清掃活動、金魚すくい大会	都市緑地
4		新長島川親水公園	1991	13,800	旧江戸川	散策路、水遊び場	-	都市緑地
5		新左近川親水公園	1994	109,840	旧江戸川	ボート乗り場、キャンプ場	-	総合公園
6	北区	赤羽自然観察公園	1999	54,020	地下水	福田、防災深井戸、湧き水池等	自然観察会、秋祭り、植栽整備活動	地区公園
7		名手の滝公園	1975	20,789	地下水	滝、茶室	-	歴史公園
8		北区中央公園	1976	64,008	地下水	福田、防災深井戸、湧き水池等	区民祭	地区公園
9		清水坂公園	1994	20,647	地下水	自然観察園、遊び場	植物・野鳥の観察会	近隣公園
10		飛鳥山公園	1995	73,272	地下水	多目的広場、こどもらんど等	-	風致公園
11		墨田区	大横川親水公園	1993	63,343	北十間川	魚釣り場、展示場、果樹コーナー等	墨田ストリートジャズフェスティバル、すみだガラス市

しかし、1996年以降、顕著な増加は無く、2003年から2008年まで増加はみられない。その後、翌2009年から2018年までに4公園が中央区及び渋谷区によって開園され、中央区では、「緑の基本計画」の策定が要因として考えられる。

3-2. 親水公園のパンフレットの頻出用語の傾向

親水公園における活動を示す頻出単語を Figure2 に示す。調査の結果、パンフレット記載の活動を示す頻出単語を121語抽出でき、「こども遊び」が全体の約35% (頻度35回) を占めていた。また、親水活動に属する頻出語をみると51語抽出でき、公園全体における約24%を占めていることから、水を介した行動がやや少ない傾向に留まった。

次に各区別の活動をみると、まず、江戸川区における親水活動は52%を占め、公園活動より上位となっていた。その内容についてみると、「子どもの遊び」が100%となっていることから、子どもやその家族に向けた整備を積極的に実施している傾向がみられた。次いで、北区をみると、全体の活動に対し親水活動の割合は約7%に留まっており、3区中最低値となっていた。内容では、「散策」や「ふれあい」がみられたことから、慢性的な利用や活動を意図した整備が実施されていることが推察される。最後に、墨田区の親水活動は50%となっており、釣りやボート等の娯楽性を目的とした整備意図が読み取れた。

4. おわりに

本稿では、ヒアリング調査及び文献調査から近年の親水公園の活用実態を捉えた。その結果、江戸川区と墨田区では公園における活動の約5割が親水活動で占められており、水に対する認識の高さが推察される。特に、江戸川区は近隣住民に対する水辺整備が積極実施している動きがみられ、墨田区では娯楽性のある水辺整備が重視していることが分かった。また、北区では親水活動に対する意識の高さ認められなかったが、ふれあいや散策が重視されており、日常的な利用を期待した整備が読み取れた。

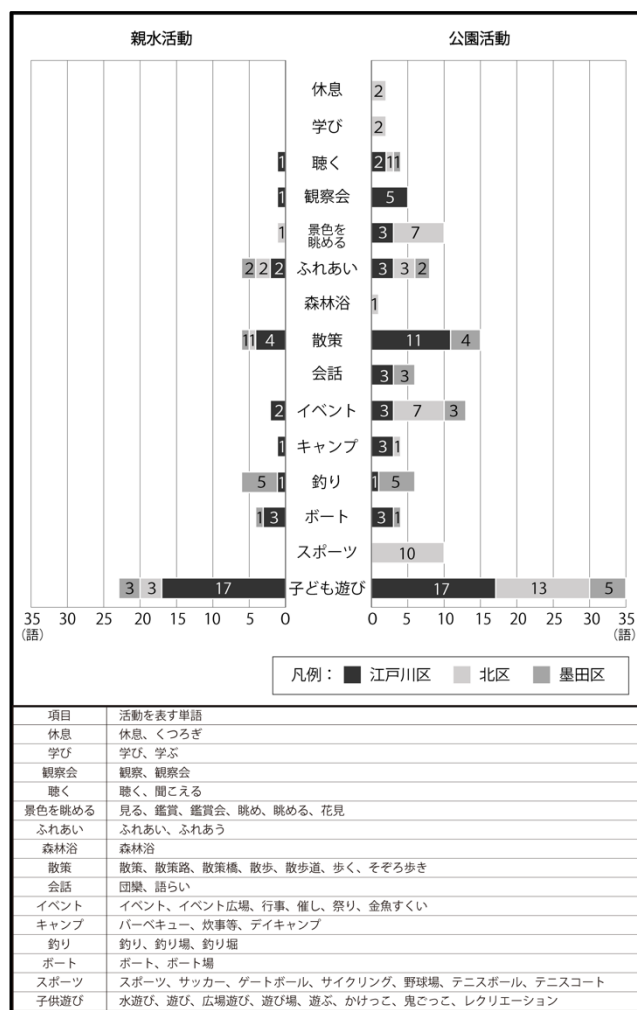


Figure 2. Classification of Activities at Water Familiar Park

今後、水の持つ効果を十二分に発揮する環境整備においては、各区の認識の違いを公園担当課が共有・把握することが重要であると考えられる。

参考文献

- 1) 養田辰彦：東京都区部における親水公園の実態に関する調査研究：日本造園学会誌 vol.68 issn 1340-8984 march
- 2) 金子容子, 畔柳昭雄：東京都区部の親水公園に関する基礎的研究～公園パンフレットの表現語句から捉えた親水機能特性～：日本大学卒業論文